



TITLE:

各地のたより

AUTHOR(S):

---

CITATION:

各地のたより. 天界 1938, 18(209): 363-364

ISSUE DATE:

1938-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167703>

RIGHT:

各地の  
た　よ　り

## 大阪支部通信

☑支部報第39號第3頁「はがき」にて  
通知。

大阪支部通信  
大阪プラネタ  
リウム

☑六月例会(18日) 心交社にて夕刻より開會、第2回天文用語審議會として星座の日本學名に就いて出席者各位の隔意なき討論審議を重ねる、出席者19名にて盛會。

☑星座名對照表 大阪支部文庫部編のラテン名、日本名、ドイツ名、イギリス名、フランス名、エスペラント名の對照表と「星座の起源と沿革」及び約200個の恒星の個有名を収めた貴重な文献を六月に刊行。

☑支部報第40號(七月5日) 附用紙2枚、160部發送。

☑「銀河」第2卷第4號(七月5日) 天界副讀本として年6回發行(購讀會費年1圓50錢)の今號の目次は、表紙「七夕祭」、扉「七夕」(萬葉集より)、卷頭言「星座名對照表刊行に際して、研究論文「觀測の生理學」(1) 醫學士江原勇吉、「小反射鏡に依る太陽寫眞」(2) 伊達、「御物流星刀」村山辨次、「アイヌ説話中の月」寺町、「オノロラに伴ふ超音波」川端勇男、「漢詩」改發香塙、「月食を見る」山田、「月食觀戰記」西尾、「貞享曆の戀」白桐、「カノープスを見る」(文學學的に)老人星、其他。

☑七月例会(9日) 夕刻より心交社にて開會、百濟理學士の「月の動秤に就いて」、見掛けの秤動、日周秤動、力學的秤動と誠に興味深い話、其後は第3回天文用語審議會に移り22時閉會、出席者11名乍ら盛會。

☑支部役員會(七月23日) 伊達幹事宛にて夕刻より開會、八月の「助松」海岸に於ける天體觀測講習キャンピングと支部維持費の寄附募集に就いて打合せを爲す。木邊天界編輯主任の出席ありて本部と大阪支部とのより以上の緊密を保ち度き御高見に賛意を表し22時閉會、出席者田中宗愛博士を始め13名。

☑支部報第41號(七月29日附) 用紙2枚、160通發送、以上の他七月10日附の支部報は K氏の阪神水害記を見舞ふ記事を掲げて水害地の阪神支部員に贈られた。

## 大阪プラネタリウムだより

☑月は換り、星座は流れてプラネタリウムの解説話題も變えられて行く。暑い夏だと云ふ。

のに、こゝ天象館内は爽快な冷房によつて、演出中の雰囲気は仲秋の候の星夜を想はし、プラネタリウムの銀河の眺めは又一入の神秘感を誘ふ。毎回、プラネタリウム演出と文化映畫が約1時間に涉り行はれてゐるが、夜間19時半よりは21時まで特別の長時間演出も行はれる。そして第1回(朝9時半)と第6回(夕18時)とは目下不定期開演となつてゐる。毎日來觀者は數百名と云ふ賑ひ!!

☒屢々珍客を迎へるプラネタリウムは、7月末に來朝中の米國大學生團40餘名を觀迎し、「東洋の天文學」の題下に特別解説(英語)が行はれて、我邦の天文界を紹介し、又、去る日には、白衣の勇士を多數迎へて、星空の下に樂しげな慰問が行はれた。尙去る7月15日夜、高城氏により、「プラネタリウム」について、と題し、JOBKより、一般常識としての天象儀に關する講演放送が行はれた。

☒やがて、東京にもプラネタリウムが設置されると云ふので、ツアイス社から、ランゲ技術師が再び來朝し、大阪の1ヶ年間の經過を點檢して行つた。

☒過日より、解説陣容の強化を計つて、新しく2名が入館し、目下毎日練習やら研究に熱心な努力を見せてゐるが、何れ近日兩君の新鮮な聲が、一般にお見えするであらう。開館以來解説に好評を博した原口氏が、プラネタリウムで研究した天文知識を、1冊の書にして出題することになつてゐる。

☒8月話題……月、月の運動(月の運動はプラネタリウム獨特の隠し藝?)

9月話題……季節の説明、太陽の黒點

(暗夜には露臺で、10纏屈折機で月や金星木星其他の觀望が公開されてゐる)

### 隕石のナマグサイ臭ひ

「天界」6月號隕石に關する記事で、拾得者がナマグサイ臭に悩まされたとのことですが、それは、隕石が空氣との摩擦により爆發しつゝ落下し、O<sub>3</sub>の生ぜるためから、オゾン臭に悩まされたのではないかと考へます。之は全く素人考へですが、御參考迄にお知らせします。 松本高校 重野四郎

編輯後記 初めての事で、色々不備の點が多かつたを御詫び致します。其上、新城先生や小山さんの御逝去等、全く豫想外の事件に、編輯しながら感慨無量のものがありました。今は未だ夏の盛り、大陸では聖戰が續けられて居ます。銃後に在つて皇軍の將士に感謝の意を表します、感あり、絶對の否定は一切を産みます。かくて世界は存在する。存在は法を生じ、法は智を生ずる。ますれば、生命の歡びがある。(木 邊)